

不易流行

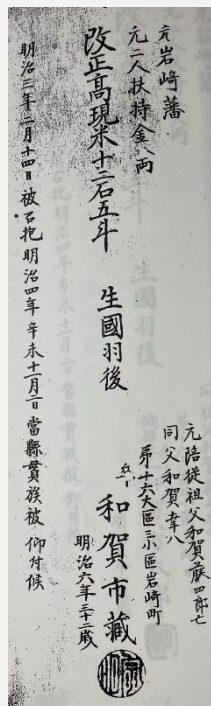
～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.70 (2022.1.27)

令和3年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
生産性の向上で働き方改革の実現
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

皆さん明けましておめでとうございます。昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」をご覧になった社員の方も多かったのではないのでしょうか。幕末から昭和までの激動の時代を駆け抜けた渋沢栄一は、家業の畑作と藍玉の製造・販売、養蚕を手伝いながら「論語」などを学びました。「尊王攘夷」思想の影響を受けて高崎城乗っ取りの計画を立てるも中止、一橋慶喜に仕えることになり財政の改善などに実力を発揮して次第に認められていきました。その後27歳の時15代将軍となった徳川慶喜の実弟徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するなどして、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。明治維新となり欧州から帰国した栄一は大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わるも、明治6年に大蔵省を辞し第一国立銀行の頭取に就任して民間経済人としての活動を始めます。その後生涯に約500もの企業等の設立、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、昭和6年11月、91歳で生涯を閉じました。



私は実はある感慨を持ってこのドラマを見ていました。それは左の「卒士族明細短冊」にあるように、当社の創業者和賀市蔵は明治6年で32歳であり、創業した明治10年で36歳ですから1840年生まれの渋沢とは全くの同世代だということになります。私はドラマの中の吉沢亮演じる渋沢栄一を見ながら、創業者の市蔵も同じ景色を見て、同じ時代の空気を吸い、歴史の出来事を経験していったのだと150年前に思いを馳せて感慨深いものが有ったのです。

作家の城山三郎氏は渋沢栄一についてある文章の中で、「色々なアイデアを抱く人はたくさんいるが、それを創業し軌道に乗せられるかの境目は渋沢の言う『魔』だ」と言います。それは「情熱・狂気と言ってもいい、何かをやるなら『魔』と言われるくらいに繰り返せ」ということです。さらに「渋沢は三つの魔を持っていた、それは吸収魔・建白魔・結合魔で、学んだもの見聞したものをどんどん吸収して身に付けてやまない、物事を立案企画しそれを建白（自分の意見を申し立てる）してやまない、人材を発掘し人を結び付けてやまない。とことん徹底して事がなるまでやめない『魔』としか言いようのない情熱・狂気、根本にそれがあるか無いか、創業者たり得るか否かの分水嶺でしょう」と喝破しております。我社の創業者市蔵も『魔』としか言いようのない情熱を持って事業を興したのだと思います。

新型コロナオミクロン株が猛威を振るっておりますが、これまで以上に十分に対策をしながら感染防止に努めて参りましょう。2月1日は旧暦の元旦、春はもうすぐです。

湯沢商工会議所新年祝賀会



賞、代表者挨拶を務め、入社した当時の思い出を語りました。

1/7に湯沢グランドホテルにて開催、祝賀会に先駆けた表彰式では、小田嶋本部長が39年の永年勤続表彰を受



湯沢商議所が新年祝賀会
活性化へ思い新たに

反射材贈呈



湯沢地区事業主安全運転推進協会と安全運転管理者協会より、1/14に羽後町教育委員会、17日には湯沢市教育委員会に反射材を寄贈しました。子供たちが交通事故に巻き込まれることの無いように。今年も歩行者ファーストをお願いします。